

東遊園地再整備基本設計に伴うWEBアンケートの結果報告（概要）

1. 趣 旨

現在、東遊園地再整備基本計画に沿って、基本設計作業を進めているが、基本計画の中で提示している基本的な考え方の中で、方針が定まっていないもの・基本設計に大きく影響を与えるものについて、基本設計案を取りまとめる前（パブリックコメント実施前）にアンケート調査を実施しました。

2. 実施結果

○アンケート募集の期間 令和2年4月1日～30日

※こどものための図書館の基本方針に関するパブリックコメントは、4月1日～5月10日に実施

○アンケート回答者数 959名

○アンケート内容

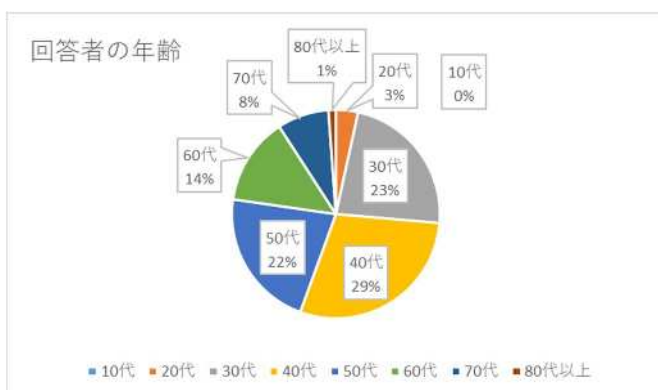
- ・現在検討中の主な施設の整備の考え方について、「エントランス」、「ひろば」、「みどり」、「景観軸」、「夜間景観」、「南側エリアの拠点機能」、「花時計」、「主な施設の配置」、「花みどりの空間の考え方」の9項目について調査しました。

3. 回答者の属性について

○回答者の居住地割合 ほぼ各区とも均等（約10%～15%）、兵庫区5%、市外からの回答は1%

○回答者の年齢 30～60代が全体の88%（各年代とも20%～30%で均等分布）
20代は3%、70代以上は9%

○回答者の性別 男性32%、女性68%



※ 青字は暫定計画事項を示す。

樹木凡例



芝生と舗装のひろば『アウトドアリビング』

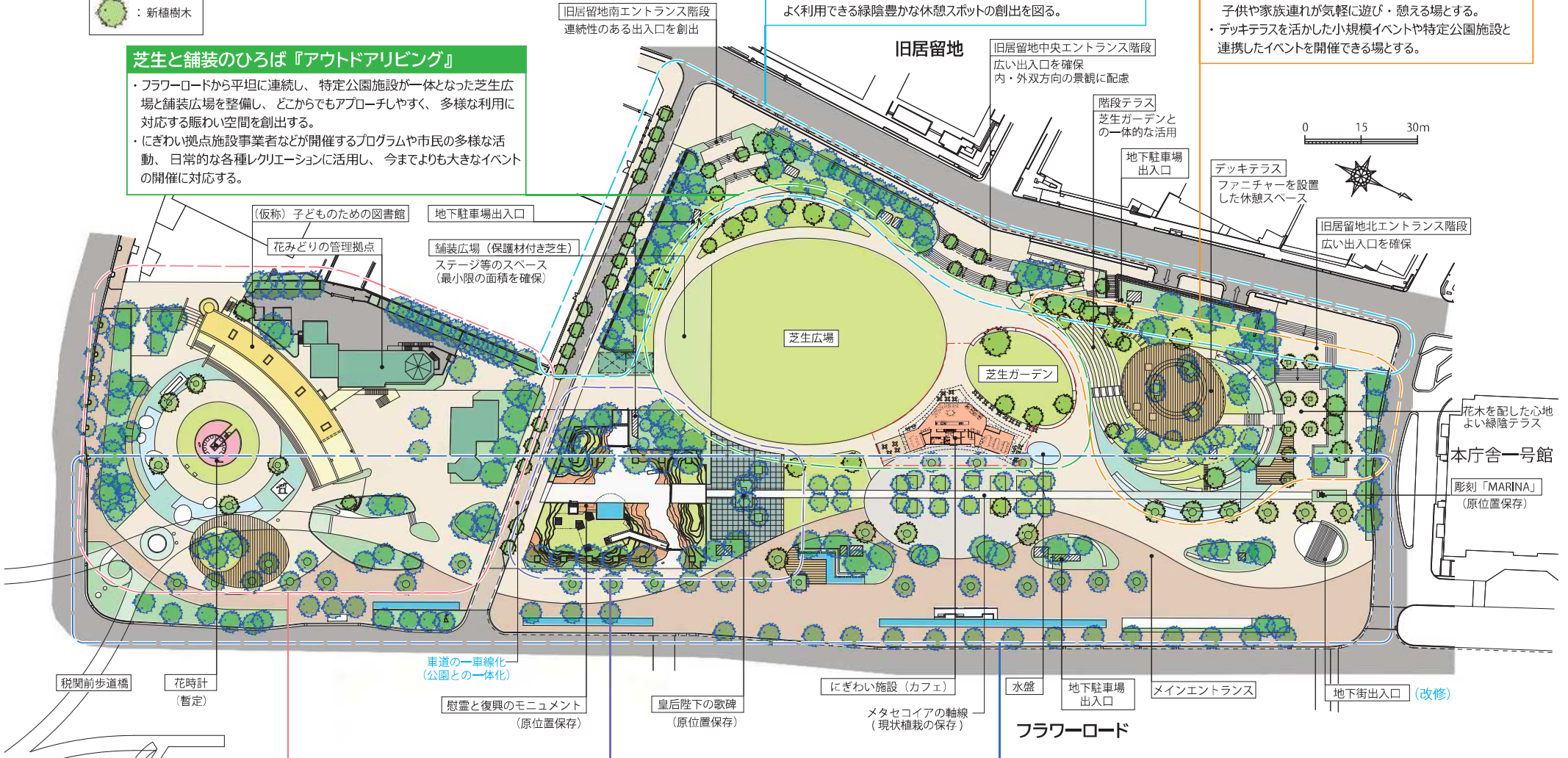
- ・フラワーロードから平坦に連続し、特定公園施設が一体となった芝生広場と舗装広場を整備し、どこからでもアプローチやすく、多様な利用に対応する賑わい空間を創出する。
- ・にぎわい拠点施設事業者などが開催するプログラムや市民の多様な活動、日常的な各種レクリエーションに活用し、今までよりも大きなイベントの開催に対応する。

旧居留地エントランスガーデン

- ・旧居留地側にそびえ立つ擁壁や殺風景なエントランスを改変し、街なみと調和し、地区の回遊性の向上を図る。
- ・既存の高木の足元まで人が入れるように改良し、利用者が心地よく利用できる緑陰豊かな休憩スポットの創出を図る。

見晴しひろば『KOBE 緑陰テラス』

- ・地下駐車場による地形の高低差を活かし、芝生広場に向けて見晴らしの良いテラスひろばを創出する。
- ・近隣で働く人や観光客が緑の中で休養やランチを楽しみ、子供や家族連れが気軽に遊び・憩える場とする。
- ・デッキテラスを活かした小規模イベントや特定公園施設と連携したイベントを開催できる場とする。



(仮称) 子どものための図書館
花みどりの管理拠点
地下駐車場出入口
舗装広場(保護材付き芝生)
ステージ等のスペース
(最小限の面積を確保)

旧居留地中央エントランス階段
広い出入口を確保
内・外双方向の景観に配慮
階段テラス
芝生ガーデンとの一体的な活用
地下駐車場出入口
デッキテラス
ファニチャーを設置した休憩スペース
旧居留地北エントランス階段
広い出入口を確保

子どもと花と緑の拠点

- ・戸外へ本を持ち出し、自然の中で自由な読書やレクリエーション体験ができるよう図書館と園地との一体感を醸成する。

慰霊と復興の街角

- ・「慰霊と復興のモニュメント」の前庭となるスペースを確保し、心安らかな慰霊の場となるように静謐な環境を創出する。
- ・遺足や震災学習団体等の集会所に利用し、1.17のつどいの際には記帳受付などに利用できる場とし、周辺の混雑の緩和を図る。

みちひろば『スーパーグリーンモール』

- ・フラワーロードと一体的に、現況の樹木を活かしつつ、生育不良木の伐採と足元の低木類の整理、必要な高木植栽を追加し、人の流れと滞留を誘発する緑陰のみちひろばを創出する。
- ・大きく広がった樹冠の下を有効活用し、自由に移動できるイスやテーブルを置いて、木陰で思い思いの時間を過ごせる場とする。
- ・にぎわい拠点施設事業者などが開催する小規模イベントや木陰のマーケット等の場として活用する。

税関前歩道橋
花時計
(暫定)

車道の一車線化
(公園との一体化)
慰霊と復興のモニュメント
(原位置保存)

皇后陛下の歌碑
(原位置保存)

にぎわい施設(カフェ)
メタセコイアの軸線
(現状植栽の保存)

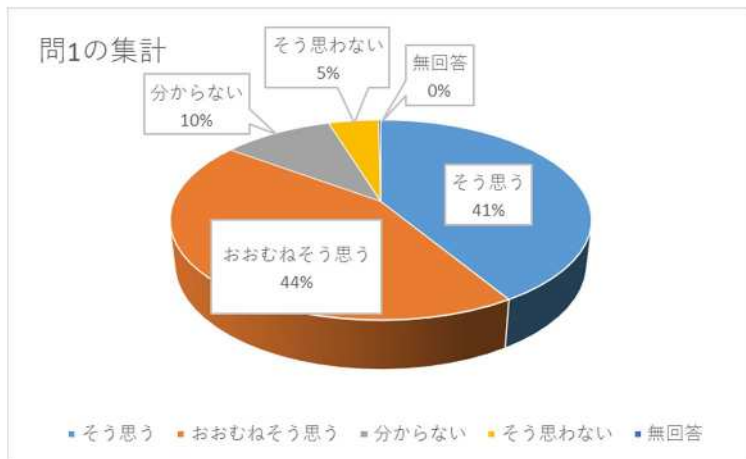
水盤
地下駐車場出入口
メインエントランス
地下街出入口(改修)

花木を配した心地よい緑陰テラス
本庁舎一号館
彫刻「MARINA」
(原位置保存)

【問1】

フラワーロードに面する北側の出入口や居留地に面する西側の出入口などの主要なエントランスは、地下駐車場の構造物や植栽により、見通しが阻害されています。基本設計では、利用者の出入りがしやすく、見通しをよくするため、既存植栽の移植や擁壁の改修を行い、フラワーロードと一体感があり、人の流れや滞留を誘引し、開放感のある新たなエントランスを整備する予定です。

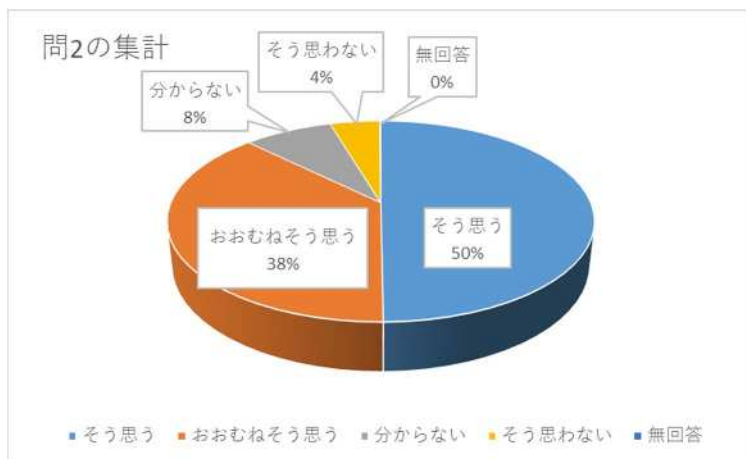
(問) エントランス整備の考え方は適切だと思いますか。



【問2】

市民のアウトドアリビングとなり、多様なプログラムやイベントに対応できる芝生ひろばや見晴らしひろばの整備を予定しています。芝生ひろばは、拠点施設からアプローチしやすく、多様な利用に対応するにぎわい空間となり、現在の芝生広場の面積を確保する予定です。見晴らしひろばは、地下駐車場の構造物による地形の高低差を活かし、芝生広場に向けて眺望がよく、近隣で働く人や家族連れが、緑の中で休養やランチを楽しむことができる空間づくりを目指しています。

(問) ひろばの考え方は適切だと思いますか。

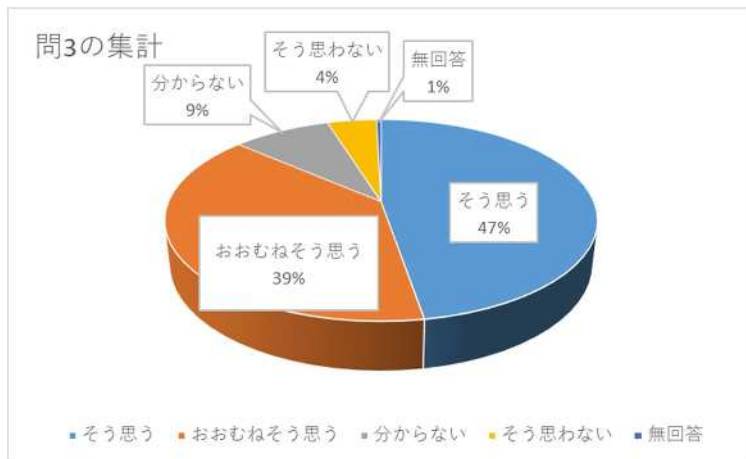


【問3】

都心の環境を形成する豊かなみどりについては、①質の高い良好な現況樹木はできるだけ活かす。②樹木の健全育成のために、剪定・間伐をする。③見通しを阻害している樹木は撤去、移植する。ことで、環境に配慮した高質な空間づくりに役立てたいと考えています。

(例：外周のクスノキはできるだけ保全していくが、フラワーロードと公園を分断する低木類は一部整理する等)

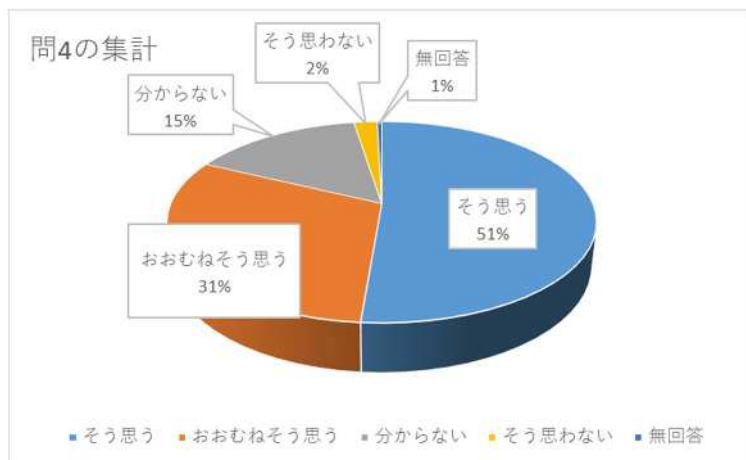
(問) みどりの考え方は適切だと思いますか。



【問4】

「マリーナ像」「皇后陛下の歌碑」「慰霊と復興のモニュメント」など阪神淡路大震災に関連のある作品は、メタセコイアやラクウショウの並木のある南北の軸線上に配置され、阪神淡路大震災の記憶の継承と良好な景観軸を形成しています。基本設計では、この良好な景観軸を保全する予定です。

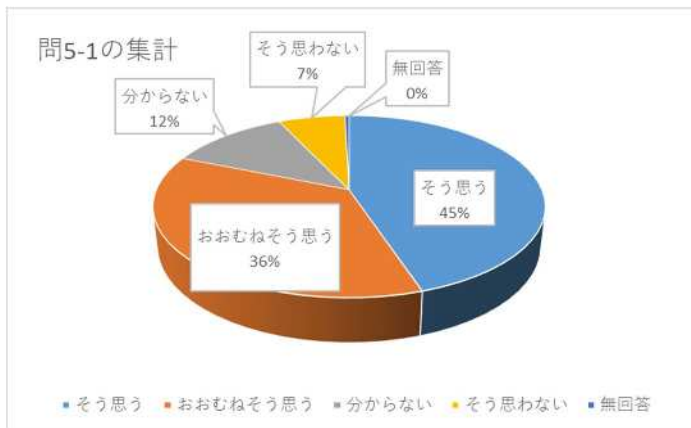
(問) 景観軸の考え方は適切だと思いますか。



【問 5-1】

再整備基本計画において、東遊園地の南側エリアは、都心とウォーターフロントをつなぐ結節点として、にぎわいや交流が生まれる拠点施設を「創りたいもの」としています。また、このエリアには安藤忠雄氏より（仮称）子どものための図書館を寄贈したいとの申し出を受けており、新たな魅力を創出することが必要と考えています。基本設計では、既存の建物や花時計を活かして、子どもや親子が集う花みどりの拠点を形成し、自然の中で自由な読書やレクリエーション体験ができるよう図書館と園地が一体となった空間を目指しています。

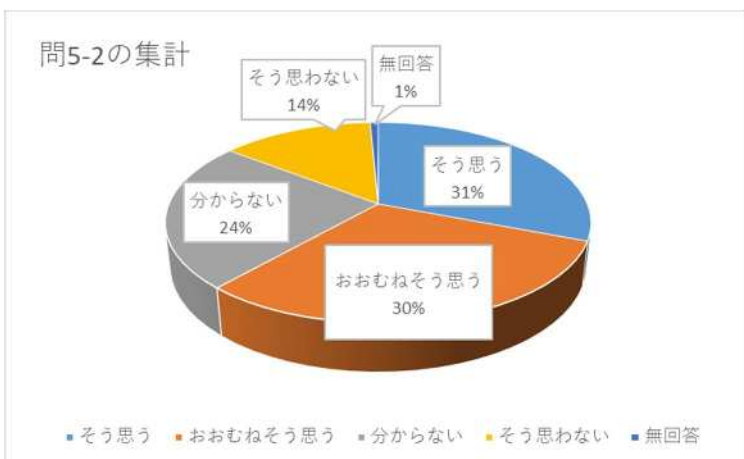
（問）南側エリアの考え方は適切だと思いますか。



【問 5-2】

花時計は、昭和32年に現在の市役所2号館が新庁舎として完成した際に、市民や企業の方々からの寄付金により建設され、日本で初めての花時計として、多くの市民・観光客の方に親しまれてきました。現在、花時計は、市庁舎2号館建替工事に伴い東遊園地南側に仮移転していますが、ウォーターフロントへの導線誘導や新設される税関線歩道橋からの眺望も期待できることから、恒久的な移転場所としてふさわしい場所として考えています。

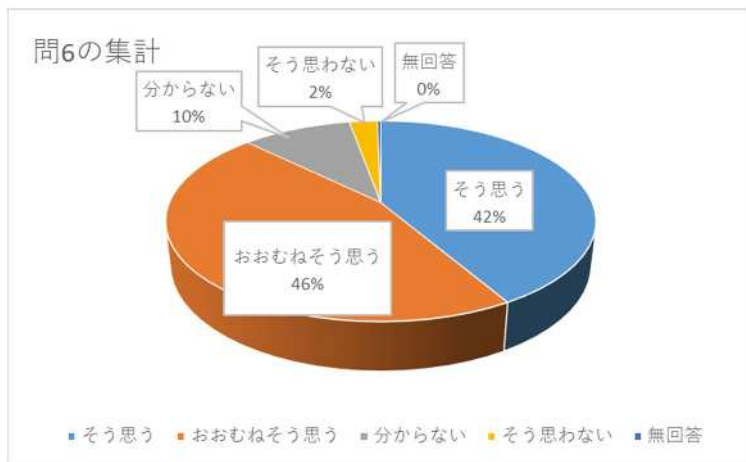
（問）花時計の移転場所として東遊園地の南側エリアがふさわしいと思いますか。



【問6】

彫刻・記念碑は、テーマ毎にエリアを分け、存置・再配置します。ただし、老朽化が著しい作品や東遊園地にゆかりが希薄な作品は撤去または園外へ移設するなど、新しい東遊園地にふさわしい配置を検討しています。また、ベンチやテーブルなどの休養施設については、固定式の施設とともに、季節ごとのイベントや来園者の多様な活動にフレキシブルに対応できる可動式の施設を多く活用するなど、自由度のある東遊園地をつくりたいと考えています。

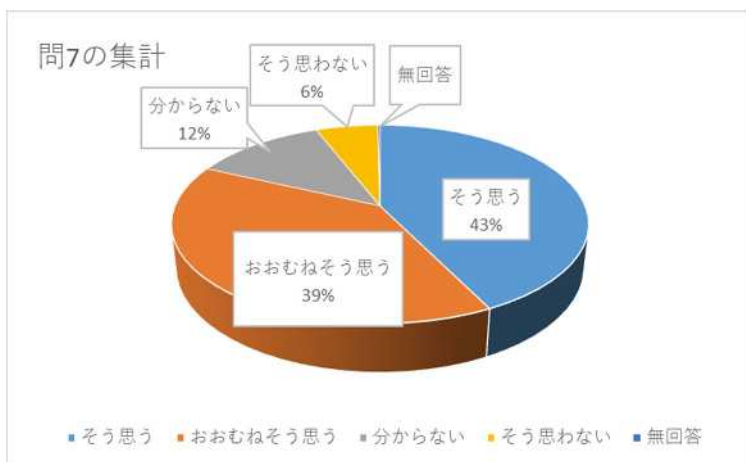
(問) 主な施設の配置方針は適切だと思いますか。



【問7】

フラワーロードは「花」「緑」「彫刻」を活かし、ライトアップなどによる「光のミュージアム」をテーマとした道路空間が創出されています。東遊園地についても、電球色を基調とした樹木・花壇・彫刻を活かした光の演出など、フラワーロードと一体となった落ち着いた夜の夜間景観を形成します。

(問) 夜間景観の考え方は適切だと思いますか。



【問8】

公園の顔となる、公園北側のエントランスには神戸の花を活用した花壇や壁面緑化等の立体花壇の整備し、公園南側は、花時計を活用し、公園の利用者を出迎えます。

また、公園内には宿根草（多年草）を利用した植栽エリアを整備することや、フラワーロード沿いはイベント等に配慮し、可変性のあるコンテナ、プランター花壇を配置するなど、季節の彩りや自然の営みを感じる高質なガーデニング空間の整備を目指しています。

（問）問 花みどりのガーデニング空間の考え方は適切だと思いますか。

